

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 207人

② 数学 207人

#### 5 留意事項

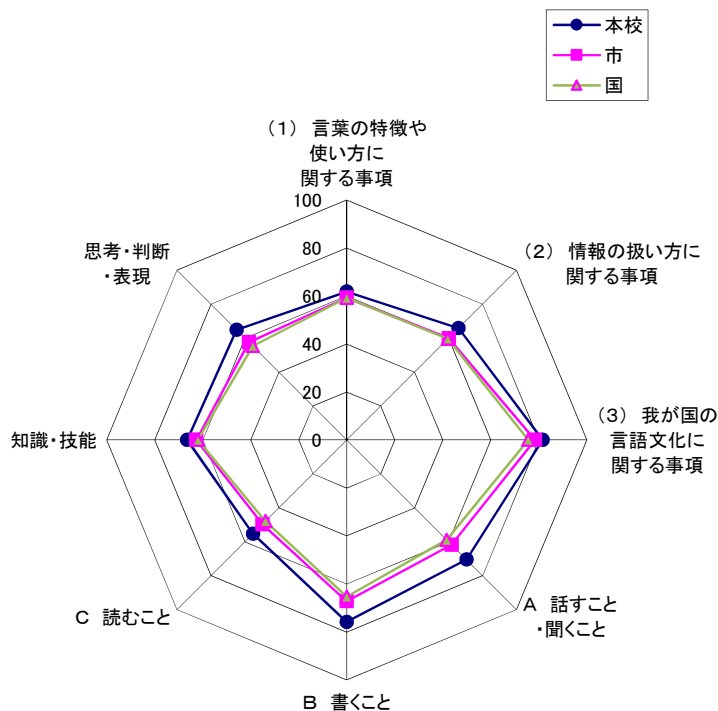
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立陽東中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	61.8	59.3	59.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	65.9	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.6	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	70.5	61.8	58.8
	B 書くこと	75.8	67.2	65.3
	C 読むこと	55.3	49.7	47.9
観点	知識・技能	66.5	62.7	62.0
	思考・判断・表現	64.9	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

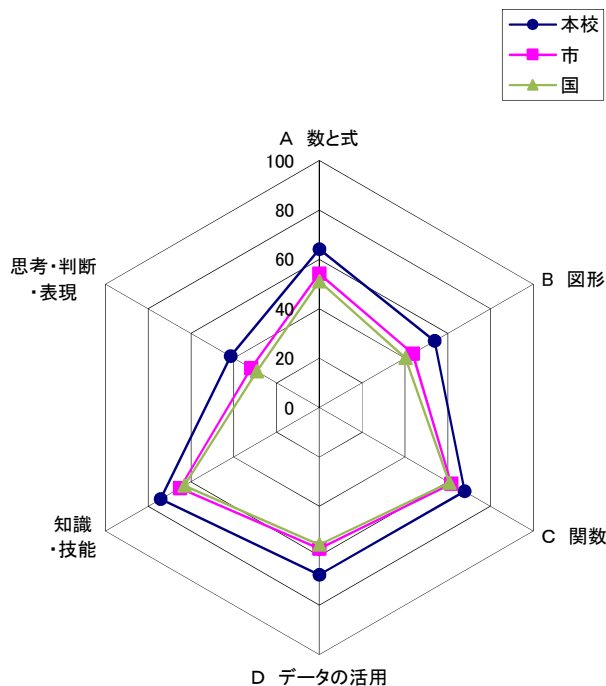
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を少し上回っている。</p> <p>○基本的な文法や漢字の定着ができています。文法を学習するときに復習を兼ねて前年度までの学習内容を確認していることが結びついていると考えられる。</p> <p>●無回答率が全国平均を上回っている。学習内容が定着できていない生徒への指導が課題である。</p>	<p>・文法や漢字の学習を復習する時間を設ける。また、文法問題では練習問題を数多くこなすことで、規則性に気付かせたり理解させたりする指導が必要である。</p> <p>・文法や漢字の反復練習を続けさせるように、定期的な小テストの実施や課題を積み重ねていく。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を上回っている。</p> <p>○具体と抽象の関係を正しく理解することができている。特に説明的文章で、文章の構成を確認する指導を継続していることが成果につながったと考えられる。</p> <p>●意見の部分と根拠の部分の記述を掴んだり見分けたりすることが苦手な生徒がいる。</p>	<p>・説明的文章の単元では、今後も文章構成の確認、形式段落やまとまりの要約などを丁寧に指導していく。</p> <p>・接続する語句やキーワードをヒントにして、筆者の意見とその根拠を掴ませる指導を行う。また、生徒自身の意見文の書き方に生かせるようにする。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を上回っている。</p> <p>○楷書と行書の違いや行書の特徴を理解できている。書写の指導でデジタル教材を提示することで、視覚的に理解しやすかったと考えられる。</p> <p>●無回答率が全国平均を上回っている。文字を書くことに興味をもっていない生徒が多い。</p>	<p>・書写の授業を取り組みながら、日常生活や社会生活の中など実生活の中で具体的に文字を書く場面を想定させて書くという体験をさせていく。</p> <p>・手書きやパソコンを使っての資料作りやレポート作成などさまざまな文書を見せることで、書き方を知ることや言語文化について学ぶ必要があるという意識付けを行っていく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均を比較的大きく上回っている。</p> <p>○相手の意見を捉えながら自分の意見を記述することができている。常に相手の意見を知ろうとする意識をもたせていることが成果につながっていると考えられる。</p> <p>●自分の意見をもつことや、それを言葉として表現することが苦手な生徒が多い。</p>	<p>・自分の意見をもつうえで他の生徒と交流する時間を持ち、意見交換や情報交換などを行う授業展開の工夫を続けていく。</p> <p>・他の生徒の意見を捉えたうえで自分の意見を文章に表現する活動を取り入れる。その際、苦手な生徒に関しては、文章の書き方や文章構成などの基本から指導をする必要がある。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、全国平均を比較的大きく上回っている。</p> <p>○文章の内容に必要な情報を取捨選択して整理することができた。文章を書く活動で、多くの情報を集める指導を積み重ねることが定着していると考えられる。</p> <p>●自分の意見を持ち、自分の意見にふさわしい言葉を使って文章にすることが不得意な生徒が多く見られる。</p>	<p>・図書やインターネットなど、さまざまなところから情報を集める指導をしながら、集めた情報の真偽を確かめるモラルについての指導も同時に行う。</p> <p>・自分の意見がもちにくい生徒には、意見を選択させるところから始め、自分の意見をもつ体験をさせる。また、語彙力が低いため、言葉の意味調べをするなど、語彙に触れた指導の工夫が必要である。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、全国平均を上回っている。</p> <p>○文章全体の内容を捉えることができている。細かいまとまりごとの要約で文章全体の内容を把握する指導が生徒に合っていると考えられる。</p> <p>●要約を自分の力でまとめることや詩に描かれている作者の思いを感じ取ることが苦手である。</p>	<p>・教科担当の説明が中心になった内容把握となっているため、生徒自身に要約をする力を身に付けさせる活動を取り入れていく。</p> <p>・圧倒的な語彙力の低さから語の意味が掴めていないため、作者や筆者の考えや意見、感情、登場人物の気持ちをイメージすることができていない。語彙力を高める指導や授業展開を考えていく必要がある。</p>

# 宇都宮市立陽東中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	64.1	54.2	51.1
	B 図形	53.9	43.6	40.3
	C 関数	67.9	61.7	60.7
	D データの活用	67.7	57.1	55.5
観点	知識・技能	74.2	65.2	63.1
	思考・判断・表現	41.5	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率は、全国平均を比較的大きく上回っている。</p> <p>○計算の基礎基本の定着は図れている。計算演習の時間を多く取り入れたことが、定着に結びついていると考えられる。</p> <p>●式を変形し、事柄が成り立つ理由を説明する問題と、数学的な表現を用いて説明する問題の無回答率が、全国平均比べると低いが、14.5%と18.8%であるので、自分の考えを言葉にすることが苦手の傾向がある。</p>	<p>・計算問題については計算のルールが定着するように授業の中で反復学習をさせる。また、教え合う時間を設けて、正しく計算をできているか確認をさせる。</p> <p>・説明問題についてはある程度の型を身に付けさせるために穴埋め形式で出題をさせる。間違えても構わないので、自分の言葉で少しでも説明するように促していく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均を比較的大きく上回っている。</p> <p>○数と式同様、基礎基本の定着は図れている。証明問題の無回答は、県や全国と比べると少ない。普段から、間違ってもよいので書いてみるという指導が生きている。</p> <p>●どの問題も全国平均を上回っているものの、図形の証明問題や正しく説明されているものを選ぶ問題の正答率が50%に届いていない。</p>	<p>・図形分野の既習事項を復習する機会を設ける。既習事項がまだ身に付いていない生徒も本時の内容が分かるように配慮する。</p> <p>・証明問題については、何が仮定で何が結論なのかをよく理解させる。その結論に向けてどのような図形の性質が必要か考えさせる。授業の中でもただ教え込むのではなく、「なぜ」「どうして」と生徒に疑問をもたせながら証明の文章を作っていく。</p>
C 関数	<p>平均正答率は、全国平均を上回っている。</p> <p>○関数の意味をしっかりと理解して問題を解くことができている。ただ計算方法を教えるだけでなく、本質まで指導したことが結びついていると考えられる。</p> <p>●式やグラフを用いて説明する問題は、全国平均を上回っているが、23.2%とすべての分野の中で一番できていない。</p>	<p>・中学数学の関数では、比例・反比例、1次関数、2次関数の4つを学習するので、それぞれの特徴を理解させる。</p> <p>・関数を利用する問題では、表・式・グラフの関係性をよく理解させ、本質から理解させる必要がある。関数の計算は良くできているので、意味を理解させることが重要になってくる。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均を比較的大きく上回っている。</p> <p>○確率の基本的な計算や、代表値の意味は理解できている。代表値を用いて、A・Bどちらの案が良いかを考える授業を通して、どの場面でも何が重要なことなのかの判断ができるようになってきている。</p> <p>●「5つの箱ひげ図を比較して、説明する」問題では、無解答率が19.3%だった。全国平均に比べると低いが、高い数値である。</p>	<p>・改めて、代表値、度数分布表、箱ひげ図などの重要語句とその意味を確認させる。特にこの分野は他の分野との関連する場面が少ないので意図的に復習する機会を設ける。</p> <p>・箱ひげ図の長所短所をよく理解させる。何が読み取りやすく、何が読み取りにくいのか分からない生徒が多い。</p>

## 宇都宮市立陽東中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(1)「朝食を毎日食べていますか」、(2)「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、(3)「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対する肯定的割合が高く、ほとんどの生徒が規則正しい生活を送っていることが分かる。

○(7)「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対する肯定的割合が高く、家庭での約束を守って携帯電話等を使用している生徒が多い。また、(5)「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」、(6)「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」に対する回答から、ゲームをしている時間よりもSNSや動画を視聴している時間の方が長い傾向があることが分かる。

●(9)「自分には、よいところがあると思いますか」では、自分によりところがあると感じている生徒は県と同じくらいだが、(10)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的割合が高く、教員からは認められていると感じている生徒が多い。今後も学校生活の場面でできたことを称賛したり、学校行事で達成感を味わせたりして、自分の行動に自信をもたせたい。

●(11)「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的割合が県平均よりも8ポイント低かった。学級活動等を通して、自分の個性や良さを理解し、自分の生き方について考える時間を設け、将来の夢や目標を持てるように支援していく。

○(13)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的割合が99%で、大多数の生徒がいじめはいけないことであると認識していることが分かる。

○(14)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」、(16)「学校に行くのは楽しいと思いますか」、(18)「友達関係に満足していますか」、(19)「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」に対する肯定的割合が県平均よりも3ポイントずつ高く、安心感や満足感をもって学校生活を送っている様子が見られる。

○(15)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、(25)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対する肯定的割合が県平均よりも高く、周囲に貢献したいと考えている生徒が多いことが分かる。

○(20)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」や(29)～(32)の授業に関する質問に対する肯定的割合が県平均を超えており、授業や学校での学習に熱心に取り組もうとする姿が見られる。

●(21)、(22)の家庭学習に対する質問では、1時間以上家庭学習(塾や家庭教師の時間を含む)をしている生徒の割合が、平日では77%であるのに対し、休日では59%に留まった。休日の過ごし方を見直させ、家庭学習の時間が確保できるように支援していく。

●(28-1)～(28-7)のPC・タブレットなどのICT機器を活用した学習に対する質問への肯定的割合が県平均と同等かそれ以下となっており、タブレットを効果的に活用できていないことが分かった。授業中はもちろん、家庭学習においてもAIドリルに取り組むなど、ICT機器が活用できるように支援していく。

●(58)「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的割合が県平均よりも7ポイント低く、理科に対する苦手意識がある様子が見られる。基礎・基本の徹底をするとともに、理科の面白さが感じられるような授業を展開し、生徒の興味関心を高められるようにする。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)学習規律の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校園で取り組む「学習の約束」の実践</li> <li>・各教科における授業の約束の設定と指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で計画的に学習に取り組む生徒や課題解決に向けて自分で考え、自ら取り組む生徒の割合が県や全国よりも上回っており、授業で学んだことを他の学習に役立てている生徒も多いことが結果から読み取れる。基礎基本の定着に努めた家庭学習が行われている。</li> </ul>
(2)基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科における基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着</li> <li>・身に付けるべき学習内容の確実な習得を目指す、単元や題材ごとに学習内容を復習させる場の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、数学とも「授業の内容はよく分かる」と回答している生徒が多く、県や全国より多いことから、「分かる授業」の実践に向けて教師と生徒がしっかり取り組んでいることがうかがえる。</li> </ul>
(3)主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で身に付けさせたい学習内容をまとめたり、学習内容や思考過程を振り返ったりする場の設定</li> <li>・互いを認め合い、協働して課題に取り組む学び合いの充実</li> <li>・授業力向上に向けた「一人一授業」及び授業研究会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1.2年生から生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合も県や全国を上回り、主体的・対話的な授業が実践された結果と考える。</li> </ul>
(4)個に応じたきめ細やかな指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識の定着を目指すAIDリルの活用</li> <li>・タブレット端末を活用した個別最適化された学習の実践</li> <li>・発達の段階や各教科の実態に応じた適切な宿題や自主学習ノートの活用</li> <li>・学習支援「ステップアップ学習」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1.2年生の時の学習の中でPCやタブレットなどのICT機器を活用することによって、友達と協力しながら学習を進めることができる」の肯定的回答が県や全国のポイントを少し上回っている。</li> <li>・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に肯定的回答が県や全国のポイントを上回っている。また「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問にも肯定的な回答が県や全国を上回っており、生徒達と教員との信頼関係が築かれ、個に応じた指導に努めていることがわかる。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分にはよいところがあると思いますか」という質問については県や全国を若干下回っている。このことから自分の適性や能力を理解し、自信をもって活動に取り組むとともに、自己肯定感を高められるような活動・場面を設定していくことが求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己理解を促し、身に付けた知識や技能を生かせる活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級活動や生徒会活動、学校行事を通して他者との関わりの中で自己理解を高めたり、自信をもって自分の考えを発表したりする活動に取り組ませる。「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか」という質問の肯定割合は96ポイントと非常に高いことから、教師との信頼関係を崩さないように称賛できる場面を意識しながら、自己肯定感を高めさせたい。</li> </ul>